

令和8年第2回定例会総体質問通告事項

3 月 4 日	<p>巻 幡 伸 一 議 員（おのみち会）</p>	<p>質問方式：一括質問方式</p>
	<p>1 公務員の法令順守と入札制度の信頼回復について</p> <p>(1) 事実確認と総括 今回の官製談合事案は、市政運営に対して信頼低下を招いたと受け止めており、市民の信頼回復という点から伺う。本事案に関し、市として総括はどのようにされるか。個人の問題との認識なのか、組織的課題があったと考えているのか。本事案により、市民の行政への信頼はどのような影響を受けたと認識しているか。組織的課題があったとすれば、どのように対処されるか</p> <p>(2) 法令順守体制の現状 ア 入札・契約事務における現行のチェック体制はどのようになっているか イ 入札談合等関与行為防止法および関連法令に関する職員研修は、どの頻度で実施しているか。また、その研修の実効性等は検証されているか ウ 過去5年間におけるコンプライアンス研修の受講率はどうか エ 内部監査や外部監査の指摘事項とその改善状況は進んでいるか</p> <p>(3) 内部統制とガバナンス 内部統制について、職員が安心して相談や通報できる制度は十分に機能しているか。 今までの内部通報制度の利用状況や、通報者保護の実効性について教えてほしい。また、組織文化の改革について、どのような取り組みを行われているか。 特定部署への権限集中や、長期在任によるリスク管理はどうされていますか。 管理監督者の責任範囲は明文化されていますか</p>	

3	<p>(4) 再発防止策 今回の事案を受け、制度改正やチェック体制の強化、権限の分散、人事ローテーションの見直し、職員倫理規定の見直し等、具体的に何をいつまでに実施されるか。また、工程表を示す等、今後の計画を教えてください。 入札プロセスの透明性の向上は検討されていますか。 第三者機関による検証や、議会への定期報告制度など、市の姿勢も伺う。 市民の信頼回復に向け、どのような決意で進めていくのか明確なメッセージを示してください</p> <p>(5) 組織文化と倫理意識 ア 「慣例」や「前例踏襲」が不正の温床とならないための対策はしているか イ 手職員が声を上げやすい職場環境づくりの取り組みはされているか ウ 倫理意識向上のための、具体的指標や目標設定はしているか</p>
4	<p>2 市長の姿勢について</p> <p>(1) この20年平谷市長のもとで総合計画に基づいた施策を展開されてきた。しかしながら、人口減少、地域経済の停滞、財政負担の増大など市民が不安を抱いている現状も否めないため、伺います ア 総合計画の数値目標は達成されたか イ 達成できなかった分野について、政策判断や優先順位の誤りはなかったか等、検証は十分なされているか ウ 20年間のまちづくりは「誇れる成果」となったか。そうであるなら、その根拠となる具体的指標を示してください</p>
日	<p>3 人口推移について</p> <p>(1) 人口は20年間で一貫して減少傾向。少子高齢化や人口減少が進む一方で、女性の転出も深刻である。地域によって状況が異なっている。人口動態をどのように分析されているか (2) 人口流出歯止め対策として何をされているか。若者の定住促進や雇用の創出、子育て支援などに取り組んできた結果、 ア 人口は1975年をピークに減少が続いており、2060年には現人口の約半分まで減少する。少子高齢化が加速されると言われるが、どのようにとらえているか イ 人口減少対策を注視した取り組みはどうか</p>

3 月 4 日	<p>(4) 公債費及び公営企業への繰出金が高止まりしており、指数が類似団体と比較すると低いため、自主財源の確保が難しい。改善の必要があるのでは</p> <p>(5) 新市建設事業による公債費の増加や、大規模建設事業に係る借入金の償還が財政を圧迫。令和5年に公債費のピークを迎え、次年度以降も注視が必要ではないか</p> <p>(6) 職員数の減少に伴う人件費の削減はされているが、ラスパイレス指数が全国平均や広島県平均を上回っている。上位職への若年職員の積極的な登用などが影響しているのではないか</p> <p>7 尾道観光をバージョンアップさせる振興策について</p> <p>(1) 滞在型観光への転換について、現状では日帰り観光客の割合が高く、宿泊率の向上が課題であると認識している</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 本市の観光客の平均滞在時間、および宿泊率の現状をどのように分析しているか</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 滞在時間延長のため、夜間観光コンテンツの実施をしているか</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ 今後、宿泊型観光へ転換するための具体的戦略を考えているか</p> <p>(2) しまなみ海道との連携強化について、しまなみ海道は世界的サイクリングルートとして知られているが、尾道は「出発点」向島・因島・瀬戸田への波及はどうか</p> <p style="padding-left: 20px;">ア サイクリング客の市内滞在促進策について現状評価はどう捉えているか</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 宿泊施設や商店街との連携強化策は考えられるか</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ インバウンド対応の多言語整備・ガイド育成について、より強化されるか</p> <p>(3) 尾道は空き家再生の先進地として注目されている</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 空き家を活用した宿泊・クリエイター拠点として今後の方針はあるか</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 観光振興と移住定住促進をジョイントさせる施策が考えられるか</p> <p>8 海事都市・尾道に国策の追い風について</p> <p>(1) 尾道の海事都市としての強みを生かし、市の目的「雇用・税収・港湾活用・地域産業維持」を、中堅造船所が勝ちやすい立場を利用して、自治体との連携モデルで再成長を目指すチャンスである</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 現在の造船業の受注状況・雇用状況・将来見通しを、市はどのように分析しているか</p>
------------------	--

3 月	<ul style="list-style-type: none"> イ LNG・メタノール・アンモニア燃料船等、次世代船舶の需要が拡大しているが、本市の造船関連企業は、この分野でどの程度の対応力を有しているかと認識しているか ウ 韓国・中国との価格競争が続くなか、本市は大量建造型でなく「高付加価値船への特化」を後押しする考えはあるか エ 内航船・特殊船・環境対応船へ転換を進めるための補助制度や、技術支援策を検討する余地はあるか オ 本市を「環境対応型船舶の研究開発拠点」として位置づける取り組みをしてみるという考えが持てるか カ 産学官連携による脱炭素船開発支援について、具体的な連携先や予算の検討が講じられるか キ 技能伝承をどのように支援されるか ク 女性・外国人技術者の活躍推進に向けた環境整備の取り組みはどうされるか ケ 造船・海運・金融・IT企業を束ねた「海事クラスター形成」に向けて市がリーダーシップ役となっていきたいが、どうか コ 観光都市としてのブランドと海事産業を両立させた都市戦略について、市長の見解はどうか
4 日	<p>9 尾道教育総合推進計画（令和4年度～8年度）</p> <p>(1) 学力向上施策の進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 全国学力・学習状況調査の結果は計画策定時と比較してどうか。改善した教科があるか。改善が見られない分野は何か イ ICT活用の成果は何%向上につながったか ウ 少人数指導の効果測定は実施しているか エ 不登校児童生徒の増減と、その対応策の検証を学校・教育委員会・市当局でされているか <p>(2) 不登校・いじめ対策では</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 計画に掲げた支援体制は機能していると評価できるか イ スクールカウンセラーの配置時間は十分か ウ フリースクールとの連携実績は、初期の目的に沿っているか エ 早期発見の仕組みは改善されているか。不登校・いじめの過去3年間の件数の推移・復帰率はどうか。事案の生徒と保護者からの相談件数は何件あったか

3	<p>(3) ICT教育推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ア GIGAスクール構想を踏まえ、端末活用率は何%か イ 教員のICT指導力の自己評価は向上しているか <p>(4) 教員の働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 教員の時間外勤務は計画策定時と比較し、どの程度改善しているか イ 月45時間超は減少しているか ウ 代替教員確保はどうか <p>(5) 施設整備・安全対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 老朽化対策の進捗率は、順次実施されているか イ 耐震・バリアフリー整備は年次計画で取り組まれているか
月	<p>10 防災DXの推進について</p> <p>(1) 本市における「防災DX」の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 防災分野でのデジタル活用の現状はどうなっているか イ ハザードマップのデジタル化や、オンラインでの情報提供のスピードはスムーズか ウ 災害時における情報伝達手段の多重化について現状と課題はあるか エ 高齢者やデジタル弱者への対応策はどうか オ 被害災害状況のデータ共有、リアルタイム把握の仕組みはどうか
4	<ul style="list-style-type: none"> カ 罹災証明書のオンライン申請等、被災者支援のデジタル化の検討はされているか キ 「防災DX」をどのように位置づけ、今後推進されるか ク 国の補助制度の活用や、広域連携の可能性はどうか
日	